

かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗

工事現場において、安全は何よりも優先されなければならぬ。今日ではごく当たり前のことですが、それを私に教えてくれたことになった、ある苦い出来事についてお話ししたいと思います。

入社して五年目、今からおよそ三十年前のことです。私が現場代理人を務めた、県道の舗装打換工事中に、作業員が交通事故にあってしまったのです。

現場は四m幅×二車線の直線道路。二車線の道路を一車線ずつ施工するため、上り下りを交互に通行させながらの施工でした。私は交通誘導のため、作業員を二名配置しました。

今であれば、専門の交通誘導員を雇うのですが、当時は会社も私個人も安全管理への意識があまり高くなかったため、コスト削減を優先してしまいました。

工事の区間は三百mくらいで、近くには

信号があり、二人の作業員はそのタイミングを計りながら、誘導棒で合図を送って、車を誘導していました。事故が起こったのは、交通量が少ない深夜一時頃。わき見運転の乗用車が、作業員に気づかず、突っ込んできたのです。

運転していた若い男性は、とっさにハンドルを切ったのですが間に合わず、作業員と接触。幸い命は助かりましたが、作業員は腰椎骨折の大けがを負ってしまいました。回復はしたものの、六十歳過ぎということもあって、仕事に復帰するのは難しくなっていました。

現在は、必ず専門の交通誘導員を配置し、安全対策用の器具を活用し、万が一の時に衝撃を吸収するクッションドラムや夜間でも遠くから見えるような電飾装置などで万全の対策を講じています。しかし、当時はそのような器具も今ほど普及しておらず、

日瀝道路株式会社
東京支店 支店長

後藤 雅昭

昭和51年(1976年)日本瀝青工業株式会社に入社。昭和63年(1988年)日瀝道路株式会社入社。平成20年(2008年)より、ニチレキ株式会社安全環境課の業務を兼任、現在に至る。



何より作業の効率化と低価格が優先され、危機管理に頭が回らなかった。それが悔やまれてなりません。

今考えても鳥肌が立つ思いですが、「現場監督の仕事とは何か」を教えてもらった失敗であり、良いものを安く、早く作り上げることに、安全の大切さを痛感した出来事でした。それ以来、大きな事故もなく、現在では安全環境の業務を兼任し、全国の事業所の事故を減らすべく尽力しています。会社も安全管理優秀請負者として、国から四年連続で表彰されるという榮譽を受けることができました。

現場監督にとつて最も重要な仕事は、安全を守ること。「おはよう」と挨拶した人と、「お疲れさま」と挨拶を交わせることが安全確認であり、その当たり前のようなことを続けていくことが何よりも大切なことだと思います。